

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：33912

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370659

研究課題名(和文)小・中学校を通じた英語教育における流暢性に関わる言語能力養成のシラバス開発

研究課題名(英文)On the Development of a Syllabus of Language Competence with reference to Fluency in English Teaching through Elementary and Junior High Schools.

研究代表者

柳 善和 (Yanagi, Yoshikazu)

名古屋学院大学・外国語学部・教授

研究者番号：40220181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では小学校と中学校の英語教育の繋がりによって、児童・生徒の英語能力の養成を一貫した視点で捉えることを目指した。まず、初等教育と前期中等教育の繋がりという点で、韓国、中国、ロシア、オーストラリアの外国語教育の現状を調査した。日本の小学校・中学校において、小学校外国語活動の成果を英語能力、学習態度等で調査し、特に小学校で「話すこと」「聞くこと」から「読むこと」「書くこと」の指導にスムーズに移行できる方策として絵本教材の利用方法、CLILの導入などを議論した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to grasp how English competence of elementary and junior high student develops with the reference to the evolving English syllabus from elementary to junior high schools in Japan. First, to understand the connection between primary and secondary education, we have investigated the current state of foreign language education in Korea, China, Russia and Australia by visiting their schools. Second, we have discussed the achievement of English teaching in elementary schools in the past by investigating the students' English ability and the students' attitude toward English learning of the students in elementary and junior high schools. We have also discussed the use of English language picture books and introduction of CLIL to smoothly expand the English ability of elementary school students from "listening" and "speaking" into "reading" and "writing."

研究分野：英語教育学

キーワード：英語教育 シラバス 第2言語習得 流暢性 初等教育と中等教育の連携 国際比較 文字言語の導入

1. 研究開始当初の背景

(1)世界的に外国語教育の早期化が進み、東アジア地域(韓国、中国、台湾等)でも21世紀初頭以降おおよそ初等教育における外国語教育(英語教育)の制度が整っているのに対し、日本ではその整備が遅れがちであると考えられていた。そのような事情の中で、東アジア諸国での初等教育における外国語教育(英語教育)の実態、また、中等教育における既存の外国語教育との接続について制度上の仕組みや、現場での受け止め方などを調査し、日本での小学校と中学校の英語教育がスムーズに接続できるように議論することが求められていた。

(2)研究開始当時の日本の小学校では「外国語活動」として事実上英語教育が行われていた。この評価基準として示された内容は、中学校の外国語教育のそれとは異なっていた。つまり小学校外国語活動では3つの観点として、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に対する気づき」が挙げられていたが、中学校外国語教育では3の観点として、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解能力」「言語や文化についての知識・理解」が挙げられていた。つまり小学校外国語活動と中学校外国語教育は評価の観点という立場からは繋がっていないことになる。小学校から中学校にかけての外国語教育において児童・生徒の英語能力がそれぞれの発達段階に応じてスムーズに向上し、言語能力の養成が図られるように検討が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は小学校・中学校の英語教育を中心とした体系的なシラバスを、その評価規準とともに、流暢性に関わる言語能力の養成という観点から開発することである。

(1)東アジア(韓国・中国)を中心として、外国語として英語教育を行っている国(ロシア)、英語が母語で外国語教育を行っている国(オーストラリア)など、他国の初等教育での外国語教育と中等学校での外国語教育の関係を調査し、日本における今後の小学校と中学校の英語教育の連携に示唆を与える。

(2)「聞くこと」「話すこと」といった音声言語が中心の小学校英語教育から、「読むこと」「書くこと」といった文字言語を使った技能へと英語能力を発展させるための、教材及び指導方法について検討する。

(3)その他、前掲の(1)(2)の目的に関連した研究を行う。

3. 研究の方法

(1)小学校・中学校(初等教育・前期中等教育)における国際比較

韓国、中国、ロシア、オーストラリアを対象として、それぞれの国での初等教育と中等教育の関連と英語教育(オーストラリアは外

国語教育)の繋がりを検討する。各国の教育制度や教育課程を資料等を通じて調査するとともに、それぞれ現地の学校を訪問し授業の参観及び教員に対する聞き取りを行う。

(2)小学校・中学校における児童・生徒の英語能力及び英語学習に対する意識調査

小学校英語教育(外国語活動)の授業を経験して、どの程度の英語能力が身についているか、及び英語学習に対してどのような自己評価をしているかを調査する。併せて英語学習に対する意識も調査する。英語能力の測定について外部試験も含めた調査も実施する。

(3)「聞くこと」「話すこと」から「読むこと」「書くこと」へ英語能力の幅を広げるための教材の活用

文字の導入の方法として、英語の絵本の活用を想定し「聞くこと」「話すこと」から「読むこと」「書くこと」へ移行できるように指導方法を検討する。

4. 研究成果

(1)小学校・中学校(初等教育・前期中等教育)の繋がりの状況と課題

韓国、中国、オーストラリアにおける外国語教育の実情の調査を行い、各国の現状と課題を論じた。

韓国

韓国においては、1997年度に小学校3年生から必修教科としての英語教育が開始され、その後何度か教育課程は改訂されているが、日本と比較して時間数も多く、3年生から積極的に「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の養成に重点を置いている。この点について、韓国と日本の小学校英語の到達度と指導の比較研究をCEFR-Jの枠組みを基にして行った(発表論文)。ここで対象にしたのは、「2009年改訂教育課程」であるが、同時期の日本の小学校学習指導要領と比較しても、韓国では4技能すべての指導を行っていることがわかる。また、児童の英語学習への態度も積極的であり、日本の児童との比較においても、コミュニケーションを図る積極的な態度や外国への興味関心が高いことを示した(発表論文)。

中国

中国については、まず、中国の学習指導要領に当たる文書を調査し、その概要を報告した(発表論文)。中国の英語教育は2001年に導入が決定され、地域の実情に合わせて始めるという方針で進められてきた。実際には2005年から順次開始されている。また、「全日制義務教育英語課程標準」(2011)では、小学校から中・高等学校まで12年間の一貫した指導を行うとして、英語課程の目標とその構成要素を示すなど、初等教育と中等教育の繋がりを意識した内容になっている。

一方で、2014年には、中国浙江省杭州市において小学校・中学校各1校を訪問し、授業参観及び教員に対する聞き取りを行った(発表論文)。杭州市は中国国内でも経済的に

豊かな地域であり、学校も電子黒板やプロジェクターなど ICT 機器が整備されていた。その際の聞きとりで、中学校の英語教員が小学校の英語教育の内容をよく知らないこと、また小学校で学習した内容をあまり評価していないことなどを確認した。

ロシア

外国語としての英語教育の事例として、東アジア以外ではロシアでの事例も取り上げている（発表論文）。ソビエト連邦の崩壊までは、英語が好意的に教えられることは少なかったが、ロシア成立以後は英語教育が積極的に取り入れられている。小学校 2 年生から「読むこと」「書くこと」も含めて教えられ、小学校英語教育では音声言語が先行する他国とは異なる事例として今後検討を進めたい。

オーストラリア

オーストラリア・メルボルン市で小学校 1 校、中等学校 2 校を訪問し、授業参観と教員への聞きとりを行った。外国語教育は前期中等教育の 3 年間は必修であるが、英語が母語であることから大学受験期には外国語を専攻する生徒以外は学習を止めることが多いこと、小学校から中等学校へ進学する際に、小学校で学習していた外国語が中等学校で開講されていない事例などの問題点の指摘があった。

(2) 小学校・中学校の英語教育における 4 技能の能力養成

まず、中学校入学時の生徒の英語能力として、小学校 1 年生から外国語活動を経験している中学校 1 年生 279 名を協力者として、4 月から 5 月に英語能力と英語学習に対する意識を調査した（発表論文）。その結果、8 割を超える協力者が小学校の外国語活動を「楽しかった」と回答し、項目ごとの自己評価としては総じて「できた」「よくできた」と回答した協力者が「できなかった」「あまりできなかった」と回答した協力者よりも大幅に多かった。特に文字学習に関してこの傾向が強く、自分の思い・考えをクラスの前で話すことは苦手とする協力者も見られた。ALT の英語の質問に記述式で解答させる問題では、協力者がまだ文字を書く能力が不十分であることを考慮して、カタカナで書いてもいいという条件で実施したが、半数程度の協力者はコミュニケーションをする上で問題のないレベルまで（綴りミスやカタカナ表記も含めて）解答できることがわかった。

同様に、私立中学校に入学直後の生徒 16 名を協力者として、TOEFL Primary を使って、「聞くこと」と「読むこと」の能力を測定し、併せて自分の英語能力の自己評価を依頼した（発表論文）。その結果、16 名全体としては「聞くこと」が「読むこと」よりも有意に得点が高く、その結果は、協力者たちの自己評価と一致した。小学校での外国語活動も 13 名が「楽しかった」と回答しており、英語

学習に肯定的な印象を持つことがわかる。

このような「聞くこと」（音声言語）の能力から「読むこと」（文字言語）の能力への発達、早期英語教育では自然に発生するが、学校教育の現場でどのように支援し、4 技能をバランスよく伸ばすかはこれから議論を進める必要がある。

そこで、「読むこと」「書くこと」の指導において、絵本を教材とすることによって、児童が音声で習得した言語能力から文字言語への転化を促進することを論じた（発表論文）。ここでは、絵本を視覚教材として使用し、文字言語をスムーズに修得することを目指した指導を提案したものである。また、CLIL (Content and Language Integrated Learning, 内容言語統合型教授法) の技法を、絵本を使用することで、小学校英語教育でも実現しようと試みた（発表論文）。

なお、CLIL を用いた教育実践については、シンガポール日本人学校での事例を紹介している（発表論文）。ここでは、シンガポール日本人学校の小学校と中学校でそれぞれ実践されている教科を日本語と英語で同時に 2 人の教員が担当して教える試みを取り上げ、小学校と中学校で同時に実施されていることで、よりスムーズに英語能力を伸ばせる工夫について論じている。

(3) 幼児英語教育に係る教員養成の問題

小学校英語教育に先行する幼児教育の中でも英語学習は積極的に取り入れられている。英語教育の早期化は小学校英語教育が高学年で必修化された頃から積極的に導入され、現在は多くの教育施設で時間は少ないものの外部講師を招聘するなどの方策を取りながら実施されている。そこで、直接幼児教育を担当することになる幼児教育学科の学生たちの英語学習に対する意識についても、彼らの英語能力とともに調査した（発表論文）。その結果協力者となった学生たちは英語に対して苦手意識が強く、英語学習にも積極的に取り組めない実態が浮き彫りになった。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

高橋美由紀・山内優佳・柳善和、モジュール学習を活用した小学校高学年の英語教育の実践 「読むこと」「書くこと」の指導を中心に、『愛知教育大学研究報告人文・社会科学編』、査読有、67 巻 2 号、2018 年、1-9、10424/00007605.

高橋美由紀・柳善和、CLIL を活用した「読むこと」の指導 絵本教材を活用して 『中部地区英語教育学会紀要』査読有、47 巻、2018 年、1-8.

高橋美由紀・柳善和、小学校・中学校における英語による教科指導の実践、『中部地区英語教育学会紀要』査読有、46 巻、2017 年、

185-192、10.20713/celes.46.0_185.

高橋美由紀・柳善和、小学校英語教育における「読むこと」「書くこと」の指導：教材としての story（お話し）、『愛知教育大学研究報告人文・社会科学編』、査読有、66 巻、2017 年、91-102、10424/7027.

柳善和・高橋美由紀、中国杭州市における小学校及び中学校の英語教育、『中部地区英語教育学会紀要』査読有、45 巻、2016 年、265-272、10.20713/celes.45.0_265.

高橋美由紀・大野直子・柳善和、外国語活動で養成された「聞くこと」「話すこと」の能力について グローバル化に対応した英語能力の測定、『愛知教育大学研究報告人文・社会科学編』、査読有、65 巻、2016 年、131-144、10424/6503.

高橋美由紀、ロシア連邦の学校教育と初等学校の英語教育の現状 「読むこと」「書くこと」の指導を中心に、『外国語研究』（愛知教育大学）査読無、49 巻、2016 年、85-105、10424/6576.

柳善和・高橋美由紀、幼児教育学科の学生の英語能力と英語学習に対する意識について、『中部地区英語教育学会紀要』査読有、44 巻、2015 年、183-190、10.20713/celes.44.0_183.

高橋美由紀・柳善和、中学校入学時の英語学習に対する意識及び英語能力について：小学校英語教育の成果を探る、『外国語研究』（愛知教育大学）査読無、48 巻、2015 年、1-20、10424/6030.

高橋美由紀・Zhu Wei、小学校英語教育における CAN-DO リスト 中国の英語教育の到達度と CEFR を基にして、『日本児童英語教育学会研究紀要』査読有、33 巻、2015 年、93-112.

柳善和・高橋美由紀、小学校児童の英語学習に対する態度の日本と韓国の比較研究、『中部地区英語教育学会紀要』査読有、43 巻、2014 年、227-234、10.20713/celes.43.0_227.

柳善和・高橋美由紀、韓国と日本の小学校英語教育の到達度と指導の比較研究 CEFR-J の枠組みを基にして、『愛知教育大学創造開発機構紀要』査読有、4 巻、2014 年、63-70、10424/5647.

〔学会発表〕(計 23 件)

高橋美由紀・山内優佳・柳善和、モジュール学習を活用した小学校高学年の英語教育の実践 「読むこと」「書くこと」の指導を中心に、第 17 回小学校英語教育学会兵庫大会、2017 年.

高橋美由紀・柳善和、CLIL を活用した「読むこと」の指導 絵本教材を活用して、第 47 回中部地区英語教育学会長野大会、2017 年.

高橋美由紀・柳善和、小学校英語教育における「読むこと」「書くこと」の指導：教材としての story（お話し）第 46 回中部地区英語教育学会三重大会、2016 年.

柳善和・高橋美由紀、小学校・中学校にお

ける英語による教科指導 シンガポール日本人学校における事例研究を基にして、第 47 回中部地区英語教育学会三重大会、2016 年

Takahashi, Miyuki & Yanagi, Yoshikazu, A Comparison of Chinese and Japanese English Education for Primary Schools: Focus on Reading and Writing. The 11th International Symposium on Teacher Education in East Asia. 2016 年.

柳善和・高橋美由紀、中国杭州市における小学校及び中学校の英語教育、第 45 回中部地区英語教育学会和歌山大会、2015 年.

大野直子・高橋美由紀・柳善和、外国語活動で養成された「聞くこと」「話すこと」の能力について グローバル化に対応した英語能力の測定、第 16 回小学校英語教育学会広島大会、2015 年.

Takahashi, Miyuki & Yanagi, Yoshikazu, The Use of ICT in English Teaching for Children, The 11th International Symposium on Teacher Education in East Asia. 2015 年.

柳善和・高橋美由紀、幼児教育学科の学生の英語能力と英語学習に対する意識について、第 44 回中部地区英語教育学会山梨大会、2014 年.

高橋美由紀・柳善和、中学校入学時の英語学習に対する意識及び英語能力について：小学校英語教育の成果を探る、第 15 回小学校英語教育学会神奈川大会、2014 年.

柳善和・高橋美由紀、小学校児童の英語学習に対する態度の日本と韓国の比較研究、第 43 回中部地区英語教育学会富山大会、2014 年.

高橋美由紀・柳善和、韓国と日本の小学校英語教育の到達度と指導の比較研究 CEFR-J の枠組みを基にして、第 14 回小学校英語教育学会沖縄大会、2013 年.

高橋美由紀・朱悌・柳善和、中国と日本の小学校英語教育比較 言語政策、教科書を中心に、外国語教育メディア学会中部支部研究大会、2013 年.

〔図書〕(計 2 件)

都築繁幸・高橋美由紀他 8 名、愛知教育大学出版会、『教科学を創る(第 1 集)』、2014 年、81-93.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柳 善和 (Yanagi, Yoshikazu)
名古屋学院大学・外国語学部・教授
研究者番号：40220181

(2) 研究分担者

高橋美由紀 (Takahashi, Miyuki)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号：30301617